
孤高と瑠璃と夜桜と

WhiteMoon

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

孤高と瑠璃と夜桜と

【Nコード】

N7235D

【作者名】

WhiteMoon

【あらすじ】

住む世界が全く別のはずの二人が意外な場所で出会う。最初はお互い誰だかわからなかったのだが……。独りを望む男と決められたレールの上を歩く女の物語。

ACT・0 夜桜

ちよつと空を見上げてみた。

明るい太陽の光が丁度よいぐらいに肌を照らす。

寒くなり始めたこの季節にはこのぐらいの天気心地よい。

けど、私は嫌いだ。太陽そのものが嫌い。

なんだか私の本当の姿を太陽だけが上から見ている気がして。

早く日が暮れないだろうか。私が私になれるのは今じゃない。

ACT・0 夜桜

「今日は来てくれてありがとう」

そう言つてホストのカケルはグラスに上等なワインを注いでくれた。
グラスを合わせて乾杯をした後、軽く傾けて赤いワインを口に含む。

「毎日来てくれるのは嬉しいけど、お金とか大丈夫？」

「全然心配ないわよ。今日もいっぱい頼むからよろしくね」

所詮親の金だからね。とは心の中だけで発した言葉だ。

ホストクラブは女が男にハマる方が多いみたいだけど、私にとって

は遊び。

本気になんてならないし、むしろ男をどうすれば本気にさせられるかっていう駆け引きが最高に面白い。

それに、私みたいな人間にとってはホストの話術は勉強になる。

スポーツ、芸能、政治。ありとあらゆる方向からお客の話題についていって話を盛り上げてくれるんだから。

お酒が回ってきた所で切り上げる。無茶をして翌日に響かせるわけにはいかない。

「カケル・・・また来てもいいかな？」

見送りに出てきたカケルは嬉しそうに笑う。

「待つてるから絶対に来てよ？」

そう言いながら私の頬に口付けをしてきた。

「じゃあまた今度ね」

手を振りながらタクシーに乗り込む。

座席に座って運転手に行き先を告げる。

窓の外にはキラキラと赤や黄色のネオンが流れていく。

ボーっと外を眺めていたのだが、目の端に面白そうなものが映った。

「ちょっと止めて！」

急ブレーキをかけてタクシーが止まる。

「ここでいいから降ろして」

運転手に代金を渡すとタクシーから降りて建物を眺める。

・・・ここならちょっとは気分も紛れるかな？

一人の女がヒールの音をゆっくりと響かせながら建物の中に入って行った。

こう思ったことはないですか？

自分の人生は生まれる前から決められていて、自分はただ決められた道の上を歩いているんだと。

ACT・0 夜桜（後書き）

初投稿で色々と至らない部分も多いかと思いますがよければ最後までお付き合いください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7235d/>

孤高と瑠璃と夜桜と

2010年10月11日15時06分発行